

## 会員の声

# ジオシンセティックスとの出会い

ユニチカ（株）不織布技術部 平泉 顕

### 1. 土木技術者としての出発

大学卒業後、一年間総合コンサルにて交通計画に従事したのち県庁に入庁、その後現職に至ります。コンサル在籍中に土木学会優秀講演者賞を受賞し、これが土木業界人としての出発のように思います。県庁に入庁する頃には「全分野を経験したい」と考えるようになり、入庁3年目には県内にて地震災害と遭遇し、すぐに最前線へ派遣されました。その後目まぐるしく各分野を経験することになります。3年、5年、7年と経験の節目ごとに仕事の質と量、そして関わり方が変化してきました。また、体力・気力に満ち溢れながら、知識や経験を埋めるスペースが無限にある時期でのがむしゃらな努力は、その後の多様な思考や冷静な判断に大きく影響すると思います（次世代を担う若い技術者の方が圧倒的な経験を若い内に重ねられることを期待します）。

### 2. 行政経験と苦悩

主に行政では「道路」、「河川」、「砂防」、「ダム」、「工業用水」、「維持管理」、「災害復旧（地震）」、「財政」、「県管理道指導監督」、「市町村指導監督」と、ほぼ全分野の実務経験を得ることができました。新たな分野を一から経験する度に多大なエネルギーを要しましたが、この経験から、未踏の領域（コンフォートゾーンからの脱却）に向かう耐性が形成されたように思います。

公共事業では、「要望」、「構想」、「政策案」、「実施方針」、「予算」、「計画」、「設計」、「施工」、「維持」、「各段階での発注・協議・検査」に関わることができ、横の広がりに加え、深さ高さも自然と身につきました。特に災害発生メカニズムには大変興味があり、ある事象が生じた場合に、全体での背景位置づけと意味を自分なりに解釈したうえで、発端の要因は何か、といった思考を回すことが非常に通快でした。また、併せて、要因除去方法を、「新システム（ICT）」、「新工法」、「新素材」などのアプローチから積極的に探索し、実際の現場で試すよう心掛けました。行政でのこうした行動は種々の制限や壁があり、その突破方法も自分なりに工夫しました。

### 3. ジオシンセティックスとの出会い

地球規模の異常気象や公共施設の大更新の時代到来を迎え、多くの課題の中、「新素材」の一つとして「ジオシンセティックス」に出会いました。特に道路・のり面崩壊現場では、すぐにその潜在可能性を感じました。理由は、安価で軽量かつ施工に少し“ひと手間を加えるだけ”で土構造物の安定性が格段に向上するという、コストパフォーマンスの圧倒的優位性を感じたからです。

行政にて表裏（本音と建前）事情に通じ、経験もある程度重ねた頃、行政の枠を超え、特に災害等の現場で活躍したいと常々考えるようになりました。ジオシンセティックスに携わり未だ1年満たないのですが、IGSの皆様の技術力、新工法や新製品の研究に非常に感銘を受けております。今後共、皆様のご指導等賜りながら、ジオシンセティックス技術の発展及び普及に微力ながら貢献できれば幸いに思います。何卒宜しくお願い致します。